

イカナゴ情報 No.1 (2024 年 5 月)



令和 6 年 5 月 27 日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部（担当：佐藤） Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により 6～9 月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

海洋観測：漁場（水深 40～80 m）の底層水温は北部でやや高め・南部は昨年並み

宗谷海峡東方海域において 5 月 23～24 日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました（図 1）。観測ラインの水温鉛直断面図をみると、ライン A ではオッタートロールの主漁場となる IS02 より沖側（水深 40 m 以深）の海域は水温 8℃以下の水塊が占めていました。ライン B、C ではかけまわしの主漁場となる IS11 や IS14 より沖側（水深 50 m 以深）では水温 9℃以下の水塊が漁場全体を占めていました（図 2）。2024 年度の底層水温の分布をみると、昨年と同様に沿岸の広い範囲に暖水が分布しており、特に北側では沖に広く張り出しています（図 3）。2024 年度のイカナゴ漁場（水深 40～80 m）の底層水温は、昨年に比べて、オッタートロールの主漁場に近い北側でやや高め、かけまわしの主漁場に近い南側は昨年並みの水温でした。

魚探観測：水深 50～60 m でイカナゴ類とみられる反応を確認

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました（図 4）。ライン A の水深 50～60 m 付近と沖合の 70m 以深でイカナゴ類とみられる魚群を確認しました。しかしトロール調査の結果、沖合の魚群の主体はニシンでした。ライン B とライン C ではイカナゴ類とみられる魚群は確認できませんでした。

漁獲物組成：イカナゴは体長 15～16cm 台が中心、大型の割合低下

ライン A の IS02～IS03（水深 70m 付近）で、オッタートロールによりイカナゴ類の採集を行いました。イカナゴの入網は 2 回の操業で合計 100 匹程度でした。漁獲標本の体長組成には 18cm 前後にピークが見られました（図 5）。昨年主体であった小型（15～16cm）が成長した個体为中心となり、2022 年以降に見られた大型（21cm 以上）は割合としては少なくなっています。漁獲物は主にニシンで、その他カレイ類とカスベ、ホッケなどが漁獲されました。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの 3 種が含まれる (Orr *et al.*, 2015)

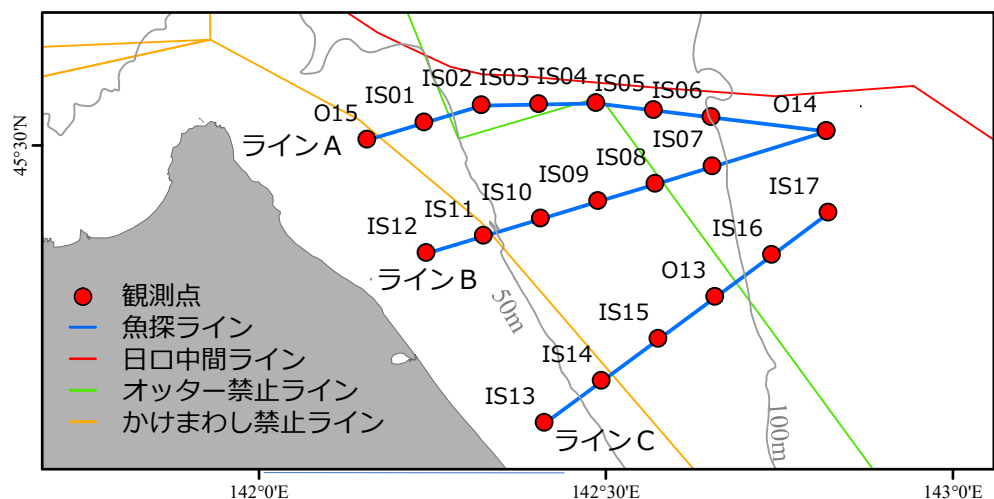


図 1. 海洋観測・魚探観測ラインの位置

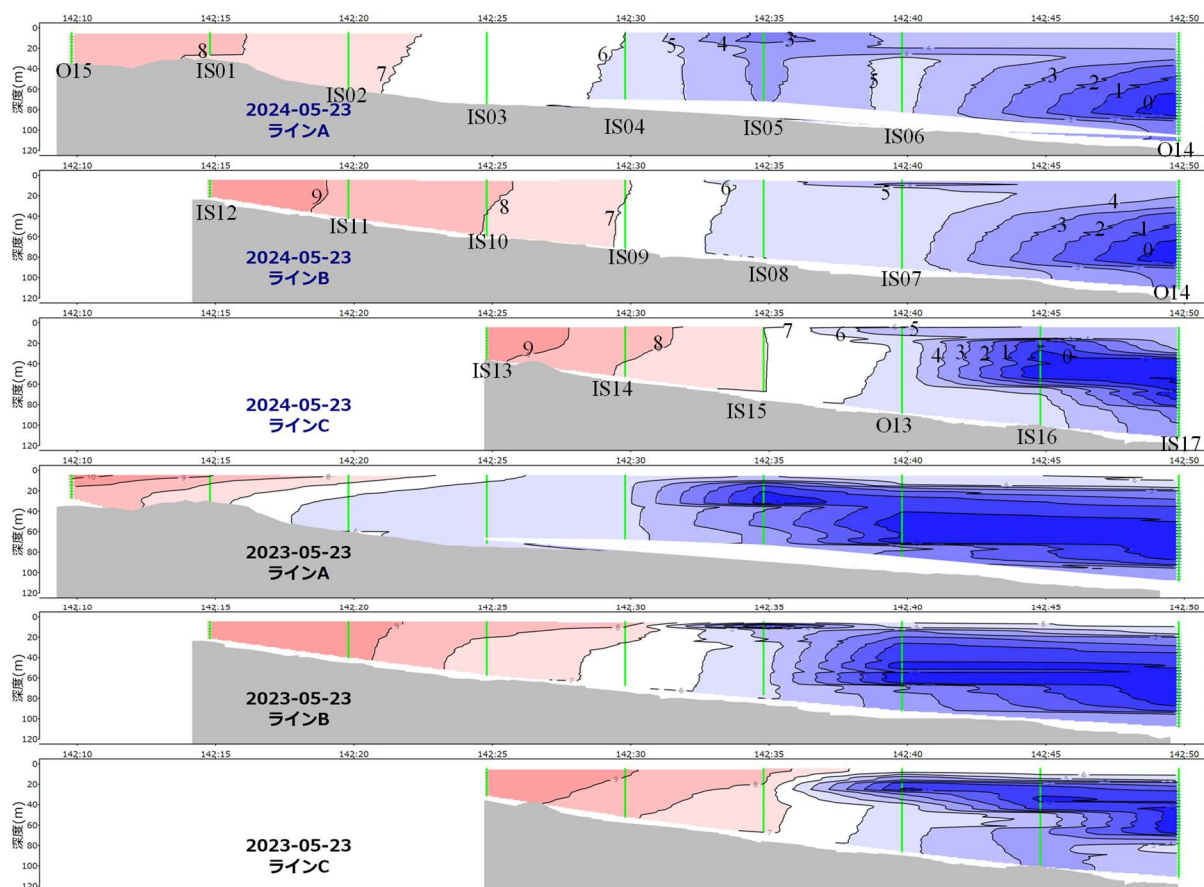


図 2. 2023・24 年の各調査ラインの水温鉛直分布

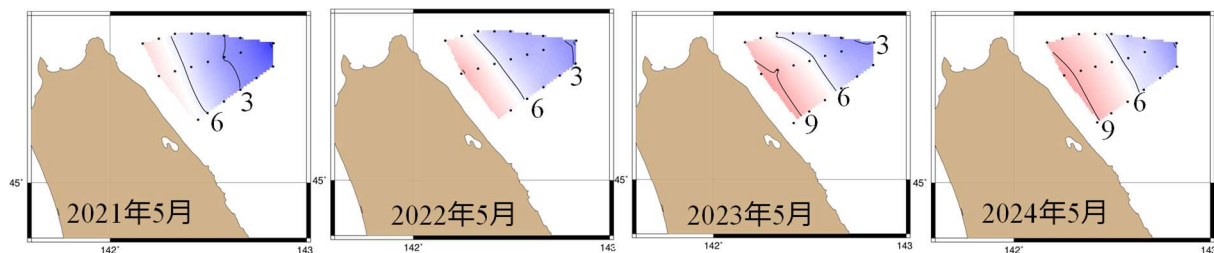


図 3. 2021～24 年の調査海域における底層水温の水平分布.

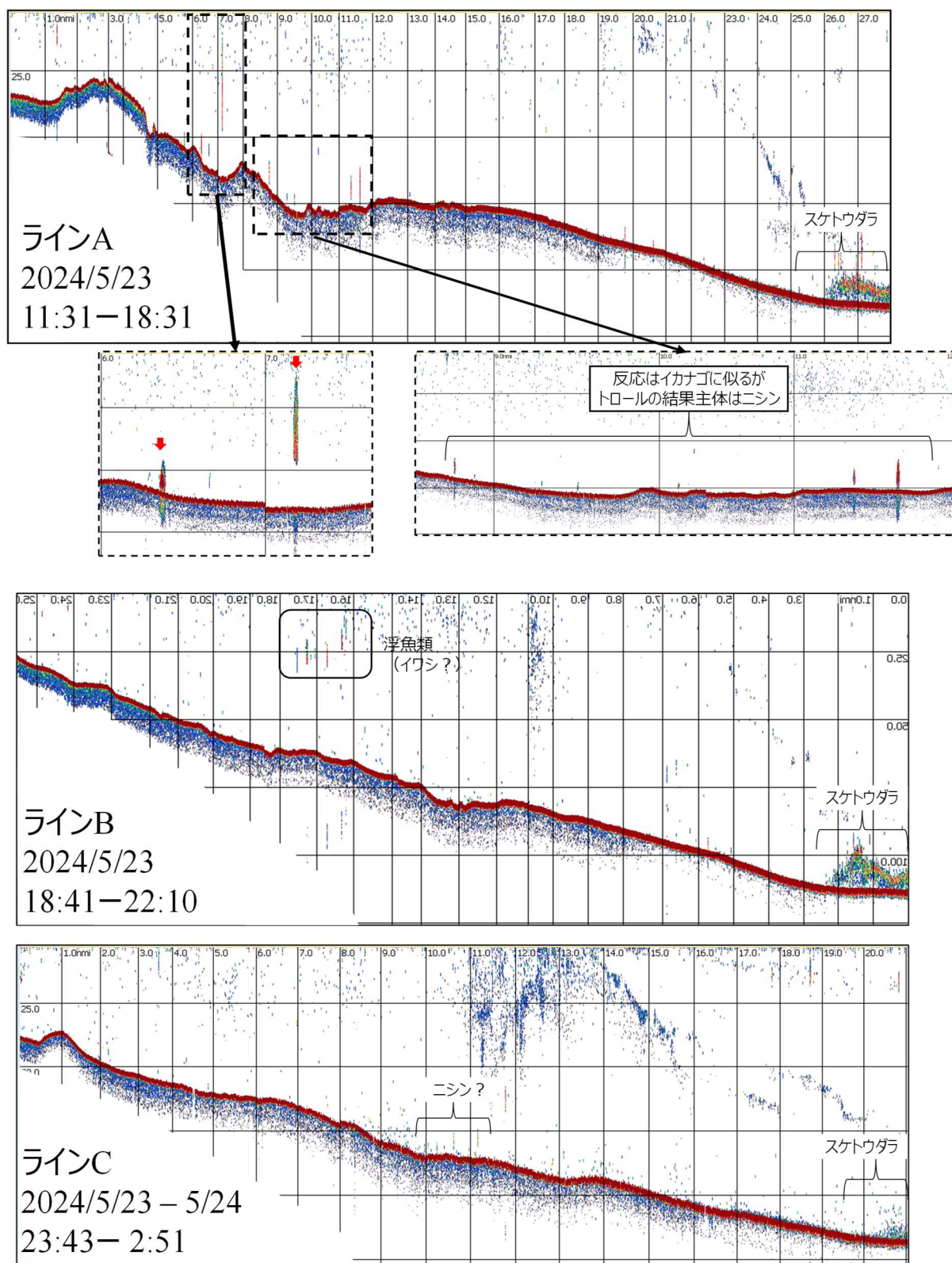


図4. 観測ラインA・B・Cにおける魚探反応. 各下図は各上図中黒点線枠内の拡大図.
イカナゴ類とみられる魚群反応を赤矢印で示した。

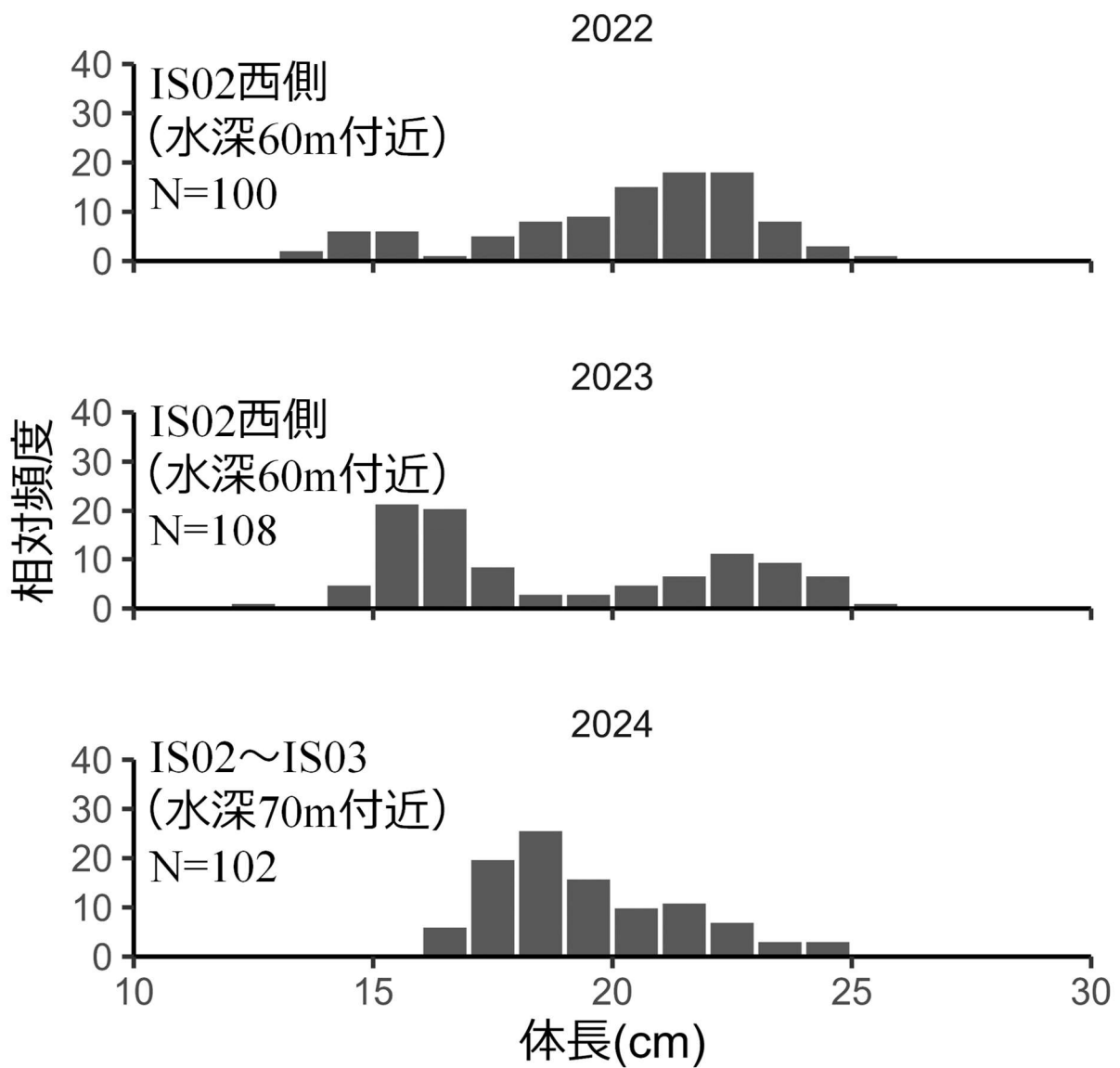
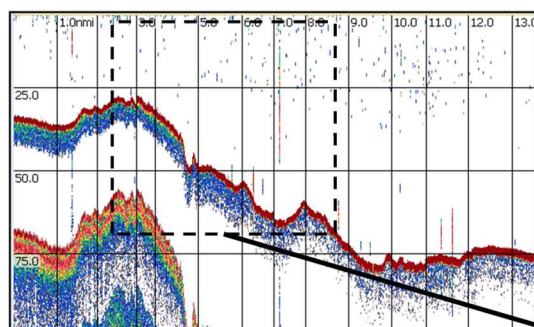


図 5. オッタートロールで採集したイカナゴ類の体長組成.

補足資料 時間帯による魚群反応の違い

今回の調査では沖合底びき網の作業時間に近い明け方にもライン A の沿岸で魚探観測を実施しました。その結果、日中にイカナゴ類とみられる魚群が見られた水深 50～60m 付近では、明け方でも同様の反応が見られました。ただし、その形状は若干異なり、日中は海底にべったりつく反応が見られたのに対して、明け方はその多くが海底から浮いた、もしくは縦に長い反応が多く見られました。



ラインA(O5 - IS04)
2024/5/23
11:31-16:41 (日中)

